

SGH 土浦第一高等学校のマレーシア国研修
(マレーシア・日本国際工科院および筑波大学支援)

平成28年8月18日～20日にかけて土浦第一高等学校が筑波大学支援の下、マレーシア工科大学のマレーシア・日本国際工科院(MJIT)を研修訪問した。

本計画は、国際化が加速するなかで社会を取り巻く課題に対し、主に深い教養とコミュニケーション能力のスキルアップ、自らが問題を解決する能力を身に付け、将来国際的に活躍しうるリーダーを育成する狙いがある。土浦一高では昨年度も MJIT を訪問し顕著な成果をあげているが今年は「Be Pioneer! マレーシア・フィールドワークで作る茨城発のビジネスプラン」のテーマを掲げ、松本穂高先生、金井大貴先生、猪越さゆり先生、中越愛様（添乗員）引率により17名の高校生が来校した。MJIT 側では MJIT 経営工学科の石崎浩之先生を中心に環境グリーン工学科の原啓文先生、杉浦則夫（筑波大学特命教授）先生そして MJIT 数名の学生諸君が対応にあたった。

MJIT では現在、連名大学（日本27大学+2組織加盟）のなかでも筑波大学が学生教育・研究指導、プロジェクト等を極めて活発に展開している。一方、土浦一高は筑波大学と地の利の良さもあり、教育・研究指導などを受けて密接な交流が推進されている。

今回のマレーシアフィールドワークでは、高校生諸君が事前に準備した課題テーマを実施する手はずであったが想定外の結果になったものがいくつか見られた。

すなわち「安全な水」を届けるテーマチームは、現地に来て飲料水の調達はいつでも、どこでも、だれでもほとんど可能であることを初めて知り、対策に苦慮していた。「地元茨城の食材を使った低価格の商品開発」についてはまずマレーシア地元の人が茨城県を全く知らないこと、お菓子どら焼きは、マレーシアにも売っており、特に美味しさにそれほど変わりなくどのように付加価値を付けるか、など戸惑いが多かった。しかし高校生諸君は、現場の状況に迅速に反応、対応し、柔軟な発想と創意工夫、そして新たな調査研究の戦略を見事に構築し、一定の成果を挙げ発表にこぎつけている。さらに現地での「自己管理責任」を十分認識し、今回の研修を終えた。次年度3年目の連携拠点形成、試販売・に期待する。



SGH 土浦第一高等学校マレーシア研修



各研修グループ計画討議



市場調査



研修まとめ作業